

NPO 法人ピュアコスモ主催

平成 28 年度「高機能自閉症スペクトラムのある若者とその保護者のための連続講座」

報告書

平成 28 年度は、2 つのプログラムを行いました。一つ目のプログラムは「ひとつ上の気づかいスキルトレーニングコース」、二つ目のプログラムは「ファッションリーダーコース」でした。それぞれのプログラムの詳細につきましては、以下に示します。

I. 「ひとつ上の気づかいスキルトレーニングコース」

1. 目的

このプログラムの目的は、職場で他者とコミュニケーションを行う場面において、話しかける際の「今、お時間よろしいですか」、および話し終わる際の「失礼します」という 2 つのソーシャルスキルの獲得を目的としました。

2. 指導プログラムの概要

本プログラムでは、シミュレーション訓練という方法を用いました。シミュレーション訓練は、一室全てが職場とされ、参加者とスタッフは、その職場の社員であるという設定で行われました。そのシミュレーション環境の中で、社員に扮したスタッフは参加者に対して様々な関わりを行いました。例えば、社員役のスタッフが参加者に、上司役のスタッフに何かを伝えに行ってもらいようお願いしたり、上司役のスタッフが社員役と一緒に何らかの相談を行ってきってもらうようお願いしたりといった関わりでした。これらの関わりを通して、参加者がソーシャルスキルを獲得することをねらいとしました。

これらのスキルをスムーズに学習するために、二つの工夫を行いました。一つ目は「ルール表」の活用でした（図 1）。ルール表とは、学習するスキルを行うためにはどのように振る舞えばよいかを記載したシートでした。

質問する

①誰かに呼ばれたら、「はい」と返事し、その人のところに行く。
②やり方の分からない仕事をたのまれたら、「すみません、この作業のやりかたを教えてくださいませんか」と言う。
③教えてもらったら、「ありがとうございます」と言う。
④そばを離れる時、「失礼します」と言う。

図 1. ルール表

二つ目の工夫として、「フィードバックシート（図 2）」を使用しました。このフィードバックシートはルール表とほとんど同じ内容のものなのですが、それぞれの項目の隣に四角い枠が設けられていました。

報告する

①仕事がおわったら、上司のところに向かう。		
②上司のところに着いたら、「失礼します。今、よろしいですか」と言う。		
③仕事が終わったことを伝える。		
④次は何をしたらいいかを聞く。		
⑤次の仕事をもらったら、「ありがとうございます」と言う。		
⑥そばを離れる時、「失礼します」と言う。		

図2. フィードバックシート

参加者がスキルを使った後、スタッフはフィードバックシートの四角い枠の中に○か△を記入し、参加者に渡しました。上手にできれば○を、改善点があれば△を、という具合でした。

3. 結果と考察

本プログラムの結果として、全員の参加者が、話しかける際のソーシャルスキルも話し終わりのソーシャルスキルも全て獲得することができました。本プログラムは、主に学ぶべきソーシャルスキルを2つに絞ったこと、また、ルール表とフィードバックシートを用いたことが効果的であったと考えています。参加者の皆さんの感想からも、本プログラムの内容は好評であることがわかりました。このプログラムで学習したスキルを用いて、日々のコミュニケーションの悩みが少しでも軽減されることを祈っています。

II. 「ファッションリーダーコース」

1. 目的

本プログラムは、服装を選ぶ際にその日の目的に合わせて洋服を選べるようになることを目的としました。

2. 指導プログラムの概要

指導プログラムの概要を表1に示しました。プログラムは全5回で構成されており、初回と最終回にはアンケートを行い、指導の前後でのファッションに関する知識や日常的な行動の変化を測定しました。

指導内容としては、スタッフからの「本日のファッションのポイントは？」という質問に対して応答できるようになることを目的とする「本日のファッションチェック」、ファッション雑誌を参照しながらコーディネートを学習する「ファッションワーク」、指導プログラムで学習した内容を家庭で応用していく「ホームワーク」の3つの指導を行いました。

表1 「ファッションリーダーコース」プログラムの概要

日程	内容
2016.11.27	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみプログラムに関するインフォームド・コンセント ・ファッションに関する好みのアセスメント (アンケート及びインタビュー) ・本日のファッションチェック (ベースライン)
12.11	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者を2～3のグループにわけ、介入を進めていく ・本日のファッションチェック (トレーニング) ・ファッションワーク →ベースライン測定後、即トレーニング ・ホームワークの呈示
2017.1.22	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のファッションチェック ・ファッションワーク
2.26	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームワークの呈示
3.12	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のファッションチェック ・ファッションワーク ・事後アンケート (社会的妥当性の評価等)

3. 結果と考察

「本日のファッションのポイントは？」という質問に対して、初回には多くの参加者は「何もない」「なんとなく」と応答していました。参加者の中には、常にジャージを着る、サンダルをはく、毎回同じ服装の方もいらっしゃいました。おしゃれに関しては「興味ない」「意識したことがない」という方がほとんどでした。

トレーニングを開始すると、ほとんどの方が「ファッションワーク」や「ホームワーク」をすすめる中でだんだんと服装の変化がみられるようになってきました。中には「このために服を買いに行きました！」という方もいらっしゃり、日常生活にも影響がありました。

最終回には、「本日のファッションのポイントは？」という質問に対して当初は「なんとなく選んできました」と言っていた方でも「春らしい服装を意識しました」「チェックのシャツを着てきました」「流行りのGジャンにチャレンジしました」などと応答する方が多くいらっしゃいました。

当初にはある特定の種類の服しか着ない方もいらっしゃいましたが、いろいろな服を着るようになり、プログラムには満足しているが、周囲の人たちが服装の変化に驚き話しかけてくるようになったことが嫌悪的であるという対象者の方もいらっしゃいました。プログラムを行うことでの影響が大きく、服装を気にかけることが嫌悪的になってしまうこともあり、プログラムを行うに関して周囲への説明などが必要であると感じています。

高校生以上になると保護者の方に言われたからやるのではなく、本人が納得し、自立した形で服装を考えていくことが必要になってきます。今回のプログラムは自ら主体的に考え、服装を選ぶことを支援したといえます。今後の課題としては、今回のプログラムが参加者のみなさんの日常にどのくらい影響を与えたかを検討していくことが求められます。

この事業は、**社会福祉法人 兵庫県共同募金会 「社会福祉関係団体・ボランティア団体・NPO支援事業」**の助成により行われました。